

■暮らしの質を測る

これからの「豊かさ」とはなにか
脱原発が問いかける将来の暮らし

プランA:

これまで通り、新しいモノをどんどんつくって消費し廃棄する。スーパーで安かったり高かったりと値段の乱高下が激しい穀物や野菜を買い、深夜には便利な24時間のコンビニを利用する。家に帰ればパチッとすべての部屋を明るくして、熱いシャワーを浴びているあいだに洗濯機と乾燥機をぐるぐる回す。平日は満員電車で1時間以上揺られて職場に通い、せっかくの休日は疲れを押して家族と一緒に車でお出かけ。渋滞でガソリン価格も燃費の悪さも気になるけれど我慢する。外食とお酒が多いのでサプリメントを飲みながら、せめて月数回はジムで健康維持。上がらない給料はなるべく子どもの教育費にまわして洋服や日用品はまとめ買い。そろそろ親の介護も必要だし、自分の老後のためにも高齢者施設を調べて貯金もたくさんしておかないと。デフレ経済なのでモノの安さと量で勝負して古くなったら使い捨てても効率的はそんなに悪くない。

プランB:

もうひとつの生活スタイル。質のよいモノを安心して購入して丁寧につかう。どこでだれが生産したのかわかる食品や大切に育てられた鶏の卵を購入、肌にやさしい素材の服はやはり日本製が一番。自宅の屋根でつくって貯めた太陽光エネルギーを燃料にした車でお買い物。家に帰るとまずエネルギーの消費量をチェック。燃料電池の熱であたためたお風呂でさっぱりしたら、ネガワット市場で売電して電気代をコストダウン。住宅も高気密・高断熱にしてから冷暖房費いらず。子どもを育てながら在宅で仕事をし、夫も育児休暇を取得中。スモールビジネスで地場製品のIT販売事業を立ち上げた。地域の商店会や自治会、リタイア世代の人たちとの関わりも生まれて夏はお祭りのお手伝い。時間の管理はたいへんだけれど自分で人生を決めている。家庭菜園の作業とバランスの取れた献立で医療費はずいぶん減った。在宅介護を受けている祖父のホームヘルパーさんは地域の顔なじみの人で安心、見まもりや支え合いのあるコミュニティには笑顔が戻ってきた。